

台風 19 号に対する農作物技術対策（事後対策：第 2 報）

令和元(2019)年 10 月 16 日
農政部経営技術課

I 普通作物

1 水 稻

(1) 冠水したが、収穫作業ができるほ場

- ・冠水したほ場は、速やかに排水を行う。
- ・ゴミや土砂等が流入していないか十分確認してから収穫作業を行う。
- ・倒伏したほ場では、土壌を取り込まないように速度を落として丁寧に刈取りを行う。
- ・高水分粃を収穫した場合は、急激な乾燥を避ける。特に、倒伏したほ場は、通風乾燥を行ってから火力乾燥を行う。
- ・土が付着し粃が汚れた場合は仕分け収穫する。また、共同乾燥施設（ライスセンター等）を利用する場合は、収穫作業を行う前に荷受けが可能か確認する。

(2) 土砂や流木等が流入したほ場

- ・大きな石、流木等の除去を最優先する。
- ・刈り分けが可能な場合は、収穫に影響がある部分に目印を立て、収穫時に事故が起きないようにする。
- ・土砂等をほ場外へ搬出し、現状回復を行うことが望ましいが、状況によっては工事等が必要な場合があるので、無理な作業は行わず、JA や関係機関に相談する。
- ・土砂が流入したほ場では、来春の作付までに土壌分析を行い、次年度作の適切な肥培管理ができるようにする。
- ・土砂流入により水稻を廃作したほ場に麦類を作付けする場合は、フレールモア等を用いて水稻株を細断し、腐熟促進のため石灰窒素等を施用する。また、土壌分析を行い、施肥量を加減する。

(3) 収穫後に稲わら等が流入したほ場

- ・他のほ場から多量のわらが流入した場合は、ほ場外に搬出する。搬出に必要なフロントローダー等がない場合は、関係機関に相談する。

(4) 水に浸かった農機具等について

- ・水に浸かったコンバインや乾燥機は、電気部品の故障が起きやすいので、十分に点検整備を行う。

2 大 豆

(1) 冠水や浸水したほ場は、速やかに排水を行う。

(2) 腐敗粒等の発生が懸念されるので、速やかに登録農薬を散布する。

(3) ほ場にゴミや土砂等が流入した場合は、収穫前に粗大ゴミ等を取り除き、収穫時に土壌を巻き込まないように刈取り高さに留意する。

(4) 廃作する場合は、事前に関係機関に相談する。

3 そば

- (1) 冠水や浸水したほ場は、速やかに排水を行う。
- (2) 倒伏した場合は、無理にいじらず自然に起き上がるのを待つ。
- (3) ほ場にゴミや土砂等が流入した場合は、収穫前に粗大ゴミ等を取り除き、収穫時に土壌を巻き込まないように刈取り高さに留意する。

II 野菜

共通（施設栽培）

- (1) 冠水や浸水したハウスは、水中ポンプなどを利用し、速やかに排水を行う。
- (2) ゴミ等が流入した場合は、速やかに除去する。
- (3) ハウス損壊や土砂が流入した場合は、土砂の撤去、ハウス修繕を速やかに行う。
- (4) 農作物の回復の見込みがない場合は、ハウスの修繕や土砂の撤去後、次作までに土壌消毒を徹底する。なお、次作栽培まで十分期間がある場合は、短期間で栽培できる代替作物の導入を検討する。
こまつな、ほうれんそう等は、は種後 50 日程度で収穫可能。
- (5) 浸水した動力噴霧機、かん水装置、モーター等の機器の稼働を確認し、故障している場合は早急に修理する。
- (6) 雑菌が付着した懸念のある農機具、資材等については、洗浄・消毒を行う。

共通（露地栽培）

- (1) 冠水や浸水したほ場は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) ほ場にゴミや土砂等が流入した場合は、速やかに除去する。
- (3) 農作物が冠水又は流出し、回復の見込みがない場合は、植え替えや代替作物の導入を検討する。

1 いちご

苗の確保が困難であり、定植時期が遅くなるほど生育が緩慢になることから、**定植してある苗を復活させることに重点を置く。**

- (1) 茎葉に付着した土砂を、動力噴霧機等を用いて丁寧に洗い流す。
- (2) 病害（炭疽病等）の発生が懸念されるので、速やかに登録農薬を散布する。
- (3) 畝が崩れている場合には、速やかに修繕を行う。大規模に崩壊した場合は、土壤水分が適湿になるのを待って、畝上げ機等を利用して畝の修復を行う。
- (4) 草勢回復のため、窒素入り葉面散布剤等で追肥を行う。
- (5)ハウスの倒壊等、復旧の見通しが困難な場合は、次年度の作付けに向け準備を進める。

2 トマト

- (1) 茎葉に付着した土砂を、動力噴霧機等を用いて丁寧に洗い流す。
- (2) 細菌性の病害等の発生が懸念されるので、速やかに登録農薬を散布する。
- (3) 湛水により根が傷むと、根の吸水力が低下し茎葉の萎れが発生しやすくなるため、天候に応じて、遮光を行って萎れ対策に努める。
- (4) 湛水状態が 2～3 日以上継続しその後、主茎の生長点が垂れ下がるように萎れ症状（1 日中萎れている）が 3 日程度続く場合は、苗の植え替えを検討する。

- (5) 草勢回復のため、窒素入りの葉面散布剤等で追肥を行う。
- (6) 換気を十分に行い、ハウス内の乾燥に努める。
- (7) 水が引いた後の土壌は、表面に泥が溜まり硬化して渴きにくくなる。また、通気性が悪くなるため、土壌表面にレーキを掛けて乾燥に努める。
ほ場に水が流入したほ場で、既にマルチが引いてある場合は、可能な限りマルチを株元まで寄せ土壌を乾燥させる。
- (8) これから定植するほ場は、定植の遅れによる苗の老化や肥切れ、徒長などが懸念されるので、鉢ずらし、かん水、追肥など適切な育苗管理を心がける。
土壌表面が乾いてくるのを待って、再度定植ベットのみに（深さ 10cm 程度）のカルチをかけて定植する。

3 にら

- (1) 葉に付着した土砂を、動力噴霧機等を用いて丁寧によく洗い流す。
- (2) 白絹病、さび病等の発生が懸念されるので、速やかに登録農薬を散布する。
- (3) 冠水被害が著しい場合は、株を刈り捨て再生させる。
- (4) 草勢回復のため、液肥等で追肥を行う。
- (5) 水が引いた後の土壌は、表面に泥が溜まり硬化して渴きにくくなる。また、通気性が悪くなるため、土壌表面にレーキを掛ける。
- (6) 換気を十分に行い、ハウス内の湿度を下げ、病害の発生を防止する。

4 ねぎ

- (1) 倒伏したものは直ちに起こす。
- (2) 雨・風により傷んだ葉は、草勢の回復を待って摘葉する。
- (3) 泥水に浸かった植物は、土砂を動力噴霧機等を用いて丁寧によく洗い流す。
- (4) べと病、褐斑病等の発生が懸念されるので、速やかに登録農薬を散布する。
- (5) 草勢回復のため、10 a 当たり窒素、加里を成分で 3 kg 程度の追肥を行う。
- (6) 株元の土が崩れてしまった場合は、土壌の乾燥を待ち再度土寄せする。

5 にんじん、だいこん

- (1) 泥水に浸かった葉は、土砂を動力噴霧機等を用いて丁寧によく洗い流す。
- (2) 黒腐病、軟腐病の発生が懸念されるので、速やかに登録農薬を散布する。
- (3) 草勢回復のため、10 a 当たり窒素・加里を成分で 2 kg 程度の追肥を行う。
- (4) 水が引いた後の土壌は、表面に泥が溜まり硬化して渴きにくくなる。また、通気性が悪くなるため、土壌表面にレーキを掛ける。

Ⅲ 果樹

1 なし

- (1) 浸水したほ場は、速やかに排水を行う。
- (2) 土砂や流木等が流入したほ場は、作業安全を確保した上で取り除く。
- (3) 降水量が多かったため、病害の発生が懸念されるので、登録農薬で防除を行う。
- (4) 破損した多目的防災網等は、収納前に修繕する。
- (5) 棚施設が破損している場合は、速やかに修繕する。

IV 花き

共通（施設栽培）

- (1) 冠水や浸水したハウスは、水中ポンプなどを利用し、速やかに排水を行う。
- (2) ゴミ等が流入した場合は、速やかに除去する。
- (3) ハウス損壊や土砂が流入した場合は、土砂の撤去、ハウス修繕を速やかに行う。
- (4) 病害等が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。

1 スプレー菊、輪菊

- (1) 倒伏後、手直しが遅れると頂部が曲がるので、早急にネットの調整、手直しを行う。
- (2) 回復困難な作については、土壌消毒を徹底し次作の準備を行う。

2 トルコギキョウ、デルフィニウム

- (1) 土砂や流木等が流入した場合は、作業安全を確保した上で取り除く。
- (2) 茎葉に付着した土砂を動力噴霧機等を用いて丁寧によく洗い流す。
- (3) 天候回復後の急な強日射により、萎れ等が発生しやすいので、必要に応じて遮光等の措置を講じる。
- (4) 換気を十分に行い、過湿土壌の乾燥とハウス内の湿度低下に努める。
- (5) 根腐れ等病害で回復が困難な病株は早めに除去し、二次病害の発生を抑える。
- (6) 農作物の回復の見込みがない場合は、土壌消毒を徹底し代替作物の導入を検討する。

3 シクラメン

- (1) 被害の軽症な鉢を集約し、管理作業の効率化に努める。
- (2) 流失した場合や、回復不可能な鉢は処分し、次作に備える。

V 畜産

1 畜舎

- (1) 畜舎が浸水した場合は、水が引き次第、清掃とともに消石灰や逆性石鹼などで消毒を行い、疾病の発生を防ぐ。
- (2) 冠水した機械・器具を点検し、事後の作業の妨げにならないよう必要に応じ修理を行う。
- (3) 堆肥の流出があった場合は、環境汚染が生じる前に可能な限り速やかに対処する。

2 飼料作物

(1) 飼料用とうもろこし

- ア 冠水した場合は、速やかに排水を行う。
- イ 収穫作業が可能となり次第、速やかに刈り取りを行う。
- ウ 収穫作業は土砂が混入しないように高刈りする。
- エ 土砂の付着の著しいものは、サイレージの品質劣化等の懸念があるので収穫しない。
- オ 倒伏、刈り遅れはサイレージの品質低下が避けられないので、調製時に添加剤（乳酸菌等）を利用する。また、給与に際しては、必要に応じて栄養成分分析を行い、栄養価、嗜好性等にも配慮し、購入乾草と併給を行うなど家畜の生産性が低下しないよう注意する。

(2) 牧草

- ア 冠水した場合は、種子の流出状況等を確認のうえ、速やかに排水を行う。
- イ 種子の流出等が激しい場合は播き直しを行う。

(注意)

- ※ 農薬の使用にあたっては使用基準（適用作物、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を厳守する。同一成分の使用回数にも制限があるので注意する。
- ※ 農薬散布にあたっては飛散防止に十分注意する。